

CSSniTE

LPA22



Photoshop
for Web

2012.3.24

5015'3'5H

Webサイトの フォーマットデザイン効率化

～レイヤースタイルとレイヤーキャンブを活用した
Webサイトのフォーマット作成～

2012/2/24

Plankton Design

株式会社Plankton Design 牧下 浩之

自己紹介

名前：牧下 浩之

Twitter：@msdfjp

株式会社Plankton Design 代表取締役

クリエイティブディレクター／デザイナー

印刷媒体のデザイン事務所に4年勤務後、独立

Web媒体を中心にフリーランス活動を行う

昨年、株式会社Plankton Design設立

東京造形大学非常勤講師



本セッションのコンセプト

シンプルなレイヤーを材料に

レイヤー効果を活用して

短時間でWebサイトのフォーマットを作成する

本セッションのポイント

1. ベースとなるレイヤーを素早く作る
2. デティールをレイヤー効果だけで表現する
3. ステートをレイヤーカンパで管理する

作業をはじめる前に

レイヤーパネルオプションを設定しておく

- * レイヤーやレイヤーセットの複製、レイヤー効果を多数使用するため、あらかじめレイヤーパネルオプションを設定しておく
(レイヤーパネル>オプション>レイヤーパネルオプション)

* 以下の3点はオフを推奨 (デフォルトではオン)

- 塗りつぶしレイヤーに初期設定のマスクを使用
- 新規効果とフィルターを拡大表示
- コピーしたレイヤーとグループに「コピー」を追加



塗りつぶしレイヤーを使って背景を作成

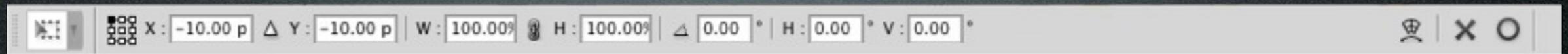
背景は塗りつぶしレイヤーで作成

- * 塗りつぶしレイヤーなら、後からキャンバスサイズを変更しても常に全面が塗りつぶされる
- * Webページのデザインをする際は、キャンバスサイズを後から変更することが多いので便利

シェイプレイヤーを使ってベースを作成

シェイプレイヤーを数値で制御（長方形の場合）

- ＊ 自由変形適用中に位置・サイズをピクセル数値指定することができる

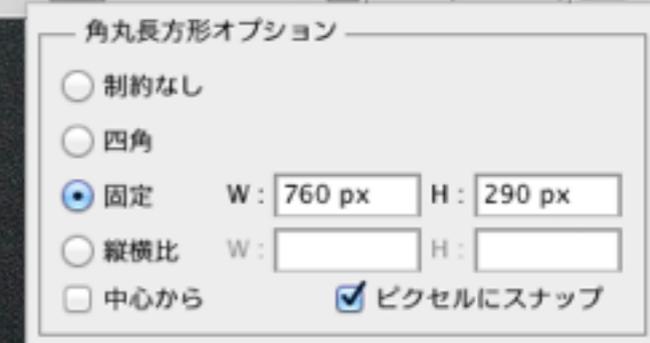


- ＊ 数値はオプションバーで指定する
- ＊ サイズの単位はデフォルトでは%になっているので、指定する際は単位「px」まで入力すること

シェイプレイヤーを数値で制御（角丸長方形の場合）

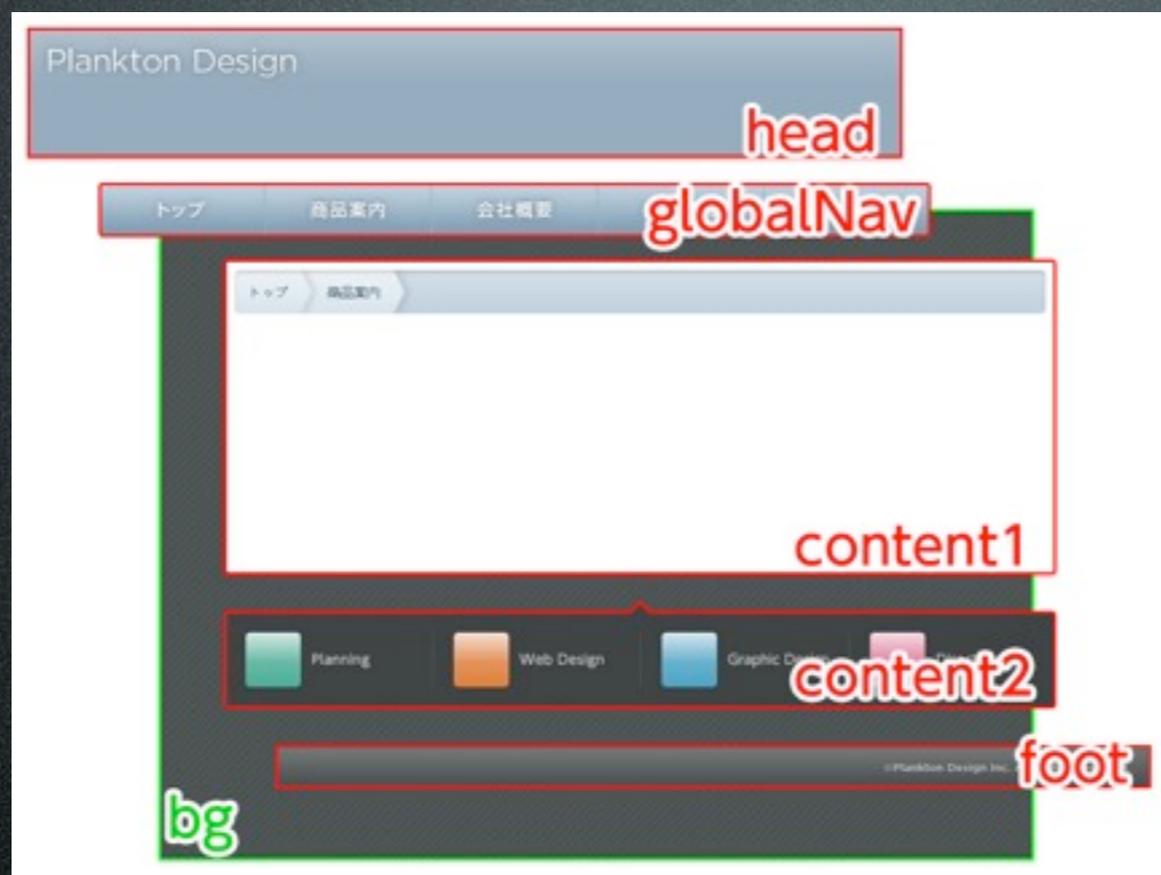


- ＊ オプションバーで角丸の半径とサイズを指定する
- ＊ 自由変形適用中に位置をピクセル数値指定する

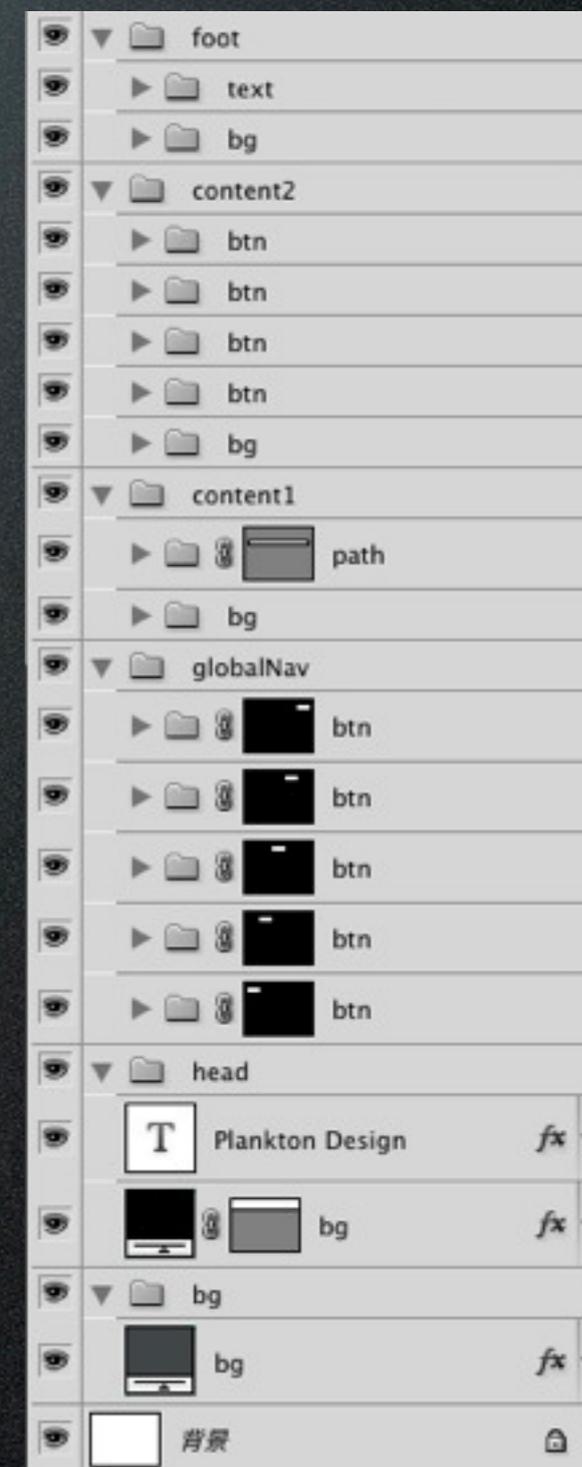


レイヤーセットで要素を管理

情報構造に沿ったグループ化とラベリングを



- * ブロックレベル要素など、実際のHTMLの構造になぞらえてレイヤーをグループ化すると便利
- * レイヤーやレイヤーセットには必ず名前を付けるようにする
- * 角丸の半径はあとで参照できないので、レイヤー名に残しておく



レイヤー効果の適用方法 1/3

1.ドラッグドロップで移動／複製

* 別のレイヤーに移動

- レイヤー効果アイコンをドラッグし、目的のレイヤー上でドロップ

* 別のレイヤーに複製

- レイヤー効果アイコンをoption+ドラッグし、目的のレイヤー上でドロップ

レイヤー効果の適用方法 2/3

2. レイヤー効果をコピー／ペースト

* レイヤー効果をコピー

- レイヤー効果アイコンを右クリックし、コンテキストメニューから「レイヤースタイルをコピー」を選択

* レイヤー効果をペースト

- レイヤー名の右側の空白を右クリックし、コンテキストメニューから「レイヤースタイルをペースト」を選択

レイヤー効果の適用方法 3/3

3. レイヤースタイルに登録／適用

* スタイルパネルにレイヤー効果を登録

- レイヤースタイルダイアログから新規スタイルを実行
- 登録したい効果の詳細を取捨選択できるのでおすすめ

* レイヤーにレイヤースタイルを適用

- 適用させたいレイヤーを選んだ状態でレイヤースタイルをクリック

* 何度も使用するレイヤー効果はスタイルパネルに登録しておくとう便利

* 塗りつぶしレイヤーや文字レイヤーは塗りの再編集ができるが、塗りもレイヤー効果で設定しておけば、他のレイヤーに展開しやすい

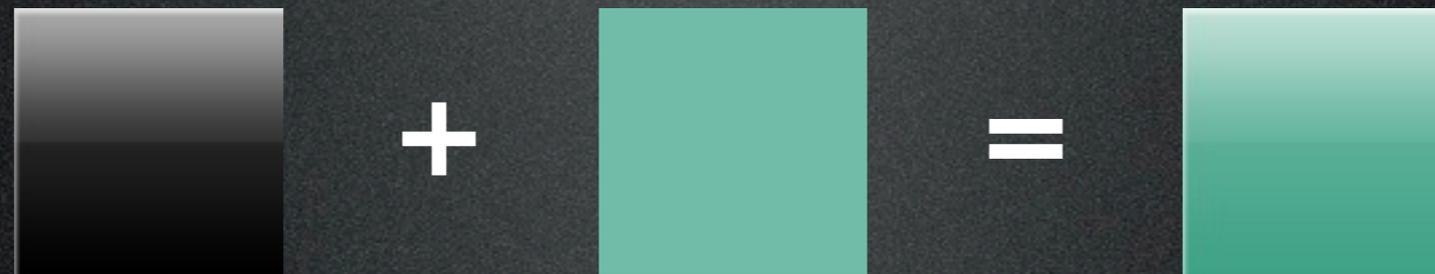
レイヤースタイルの活用

レイヤースタイルの管理

- * プリセットマネージャーを使用して、作成したレイヤースタイルを書き出したり、書き出されたレイヤースタイルを読み込むことができる

レイヤースタイルの重ねがけ

- * Shift+レイヤースタイルをクリックで、既存のレイヤー効果を活かしたままレイヤースタイルを重ねて適用することができる
- * 効果の項目が重複する場合は上書きになってしまうので注意



レイヤー効果を活用した表現

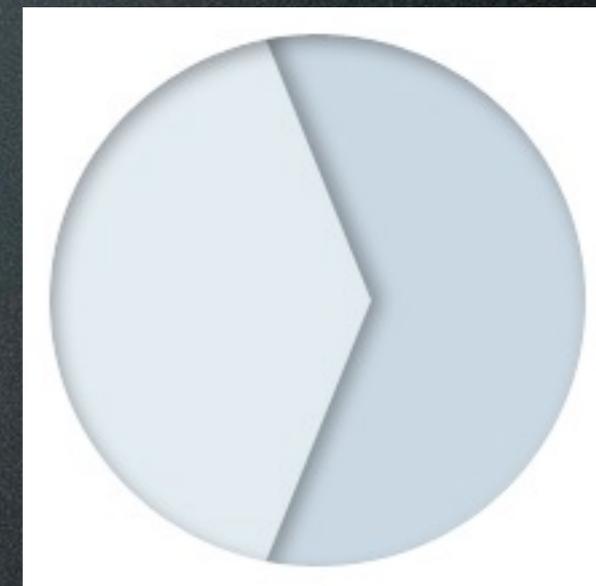
レイヤーにもレイヤーセットにもマスク適用することができる

* レイヤーにマスクが適用されている場合は

マスクの範囲がレイヤー効果の適用範囲になる

* レイヤーセットにマスクが適用されている場合は

レイヤー効果はマスクに左右されない

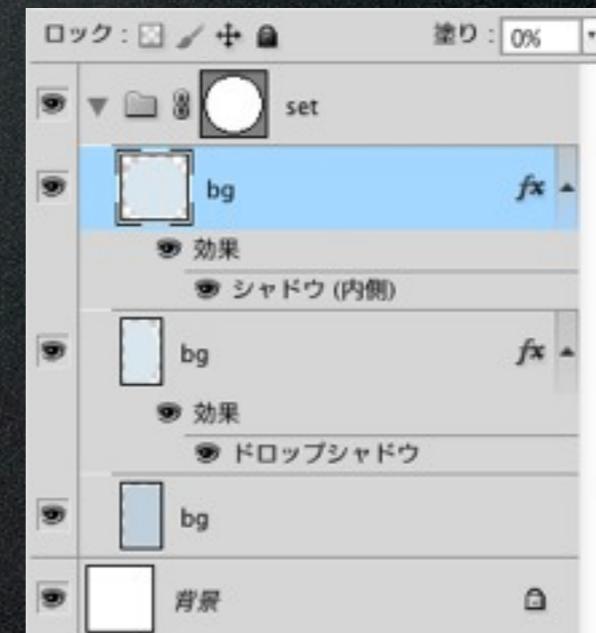


レイヤーの塗りの不透明度を0にしてレイヤー効果だけを表示

* レイヤーパネルの塗りの不透明度を変更することで、

レイヤー効果の透明度を保持したまま、レイヤーの

透明度を変化させることができる



レイヤーセットでステートを管理

レイヤーセット単位で各ステートを作成

- * ステートを表現するレイヤーを、ステートごとにレイヤーセットとしてまとめておくことで、レイヤーセットの表示／非表示を切り替えるだけでステートを切り替えることができるようになる

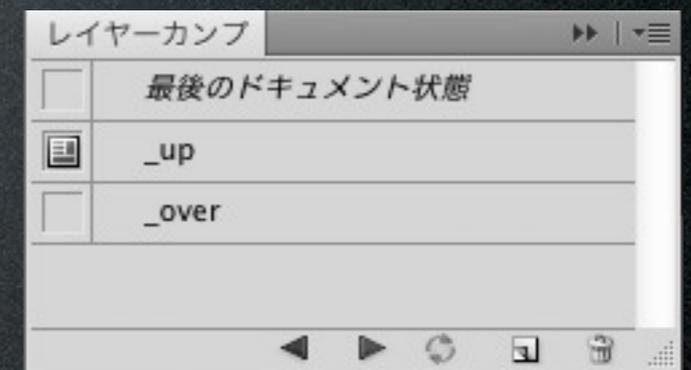
jsxを活用して、ステートの切り替えを自動で実行

- * 以下のjsxを実行すると、レイヤーセット名を指定して、表示／非表示させることができる
 - setLayerssetVisibility
- * レイヤーセット名を、通常時「_up」、ロールオーバー時「_over」などに統一しておくことで、上記jsxを活用して、自動でステートの切り替えを行うことができる

レイヤーカンパでステートを管理

レイヤーカンパにステートを保存

- * レイヤーカンパはレイヤーの表示／非表示、位置、外観（レイヤースタイル）を保持させておくことができる
- * 通常時／ロールオーバー時の状態をレイヤーカンパに保持しておく



レイヤーカンパを書き出し

- * ファイル>スクリプト>レイヤーカンパからファイル...を実行することで、各レイヤーカンパを書き出すことができる
- * 全体を書き出したい場合はスライスを削除する

まとめ

1. シェイプレイヤーを使ってベースとなるレイヤーを素早く作る
2. 要素の整理にレイヤーグループを、ディテイル表現にレイヤー効果を活用する
3. ボタンの通常時やロールオーバー時などの状態をレイヤーカンパで管理する

ご清聴ありがとうございました！

